

「跳び箱運動」

ワクワクする授業を作ろう
 ～楽しいと感じる場면을授業
 にちりばめて～

本単元で育成する資質・能力

主体性・自己有用感・説明力

令和 5 年 12 月 1 日 (金) 5 校時

1 単元のデザイン

【単元観】

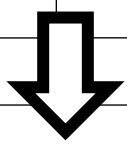
本単元は、小学校学習指導要領解説体育編【B 器械運動】に示されているように、器械運動について次の事項を身に付けることができるように設定されている。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
 ウ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気をつけたりすること。

【児童観】

本学級児童に 6 月実施したアンケートでは、「体育の授業は好きですか」という問いに肯定的回答が 100%、「運動や体を動かすことは好きですか」という問いにも肯定的回答が 100%であった。また、ロング休憩時間になると、児童は常に外に出て遊んでいる。体育の授業では、どのような運動でも、進んで取り組んでおり、本学級の児童は、運動に対する興味・関心が高いと考えられる。

更に、複式学級という学級構成上、普段の授業から児童自身が課題を見つけ学習計画を立てて、学習を進めていく体験をしている。そのため、必然と教え合ったり、確かめ合ったりしながら学習をしている。



【指導観】

①児童が提示された選択肢から、自己決定する場の設定

・運動意欲を刺激する教具の配置をして、自ずと選択や決定を行いながら運動できる場づくり

「特に配慮が必要な児童への手立て」

- 校内にある教具を最大限に活用して、子供達が順番を待つことなく、やりたいときにいつでも挑戦できるようさせる。
- だれもができる技をたくさん作り出し、子供達に技を選択して運動する楽しさを味わわせる。
- 何を目的にその運動をしているのかを問いながら、子供達に学習の目的を明確にさせる。

②対話的な学びの場の設定

・自分の対話、教具との対話、人と対話を通して、運動を親しむ態度が育つ場づくり

「特に配慮が必要な児童への手立て」

- 単元の最終目標とその学習過程を知らせて、具体的な単元最終の自分の姿を想像させて、学習の見通しを持たせる。
- 自分で学習を進めていけるのだということを理解させる。
- 自分が選択・決定した内容やその取組を振り返らせ、学習の成果を見つけさせる。
- 自分がやりたい運動を達成させるために、何を活用する(何と対話する)のかを選ばせる。

2 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
跳び箱運動の楽しさに触れ、その運動の行い方を知るとともに、繰り返し系や回転系の基本的な技を身に着けることができるようにする。	跳び箱運動では、自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫するとともに考えたことを友達に伝えることができるようにする。	跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の行い方について言ったり、書いたりしている。 ②跳び箱運動の基本的な繰り返し系や回転系の技ができる。	①自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫している。 ②課題に応じた技を選んで、解決する方法を考えて、友達に伝えている。	①跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守って、誰とでも仲よく運動しようとしている。 ③場の安全を確かめて運動している。

4 単元の学習計画（4時間）

時間	1時間目	2時間目	3時間目（本時）	4時間目
ねらい	▽安全に運動できる場を考え、学習の見通しをもつ。	▽設置してあるとび箱の位置や高さ、大きさに合わせて、できる技や挑戦する技を決めて、仲間と仲よくとび箱運動をすることができる。		
めあて	①学習の進め方を話すことができる。 ②安全を確かめることができる。	①とび箱に合った技を選んで運動することができる。 ②安全に跳び箱運動をすることができる。		
評価	知 ①（カード）		知	知 ②（カード）
	思	思 ②（観察）	思 ①（観察）	
	態 ③（カード）	態 ②（観察）	態 ①（観察）	態
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ■説明する内容は、画像で提示する。 ■単元最終の自分の姿を決めさせて、学習の見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■繰り返し系を行うとび箱の向きや高さを、毎時間変えることで、子供達の挑戦する技の練習の場を増やしたり、学習意欲を継続させたりする。 ■本時でやりたい技や挑戦したい技を決めて学習を始めさせる。 ■「何をしているのか」「どうしてやっているのか」「どうなればよいのか」という問いかけをして、子供達に活動の目的を自覚させる。 ■練習のやり方に不安をもっている子供達には、友達の活動を見たり、友達に方法を聞いたりさせて、活動の参考にすることを理解させる。 ■運動時間を確保するために、①テープでとび箱の位置をしめす。②視覚資料を使って指示する。③記述を多くし、ふりかえりを簡素化する。 		

5 本時の展開（3/4時間目）

（1）本時の目標

自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫できるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

跳び箱運動に進んで取り組むことができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

（2）本時の評価規準

自己の能力に適した課題を見つけ、技ができるようになるための活動を工夫している。

（思考・判断・表現）

跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

時間	1 時間目	2 時間目	3 時間目 (本時)	4 時間目
00 分	①単元の活動の確認	①教具準備…とび箱配置図を確かめて、跳び箱に貼ってある色シールと同じ色の床のシールに、跳び箱をセットする。		
05 分		②準備運動…跳び箱運動の動作を確認するための運動をする。 パワー50%、80%と出す力をセーブしながら、体をほぐしながら跳び箱運動をする。		
10 分	②教具の準備	③活動の確認…本時のとび箱の配置（向きと高さ）を確認する。 活動のめあてと活動時間、活動内容を確認する。 前時のふりかえりを共有し、本時の学習意欲を高める。		
15 分		④活動 1（7 分間）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆「活動」</p> <p>挑戦する技や練習の場などを、自分で決めて活動する。難度の高い技に取り組むには、友達のアドバイスや録画機能などを活用して解決する。</p> <p>◆「ほっとタイム」</p> <p>悩み相談の場であり、活動を見直したり、学習の目的を確認したりする。また、緊張感のある活動時間にするための休憩時間として設定する。</p> </div>	
20 分	③準備運動	⑤ほっとタイム		
25 分	④試しの活動	⑥活動 2（7 分間）		
30 分		⑦ほっとタイム ⑧活動 3（5 分間）		
35 分	⑤教具の片付け	⑨教具片付け…グループで協力して、次に使う人たちのことを意識して、教具をもとの位置に戻す。		
40 分	⑥ふりかえり	⑩ふりかえり…本時で挑戦した技を確認しながら、楽しかったことや次時でやりたいことを見つけて、本時の成果を確認する。		
45 分				